



播磨内陸医務事業組合立 播磨看護専門学校存続に関する陳情書

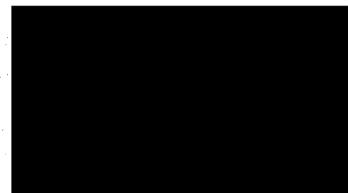
陳情者

郵便番号
住 所
氏 名
電話番号



播磨看護専門学校同窓会代表

郵便番号
住 所
氏 名
電話番号



件 名 播磨内陸医務事業組合立 播磨看護専門学校存続に関する陳情について
趣 旨 公立の播磨看護専門学校が存続するよう関係機関に働きかけください。

理 由

日頃は、地域医療の維持・充実のために御支援いただいておりますことに対しまして、心よりお礼申し上げます。

播磨看護専門学校は、昭和51年4月に看護婦養成所として産声を上げ、41年目を迎える伝統ある看護師養成学校であり、昨年3月には1,200名を超える卒業生を数えるまでに至りました。

「播磨看護専門学校」で「看護実践能力と豊かな人間性を身につけ、地域にはばたく人材」になるために、ともに学んだ私たちは、強いきずなで結ばれています。

- 一度社会に出てからチャレンジする友もいました。
- なかには色々な家庭の事情を抱えた友もいました。
- シングルマザーとして必死で子育てをしながら頑張り、看護師になった時、号泣した友もいました。

それぞれの人生をやさしく包み込んでくれたのが、私達の母校「播磨看護専門学校」なのです。

卒業後は、志を持ってそれぞれの道を進むこととなりましたが、初心を忘れることなく、在学時の熱い思いは現在も脈々と持ち続けています。

先般、新聞報道等において学校の存続が危ぶまれる記事を拝見いたしました。

思い出多い学校がこのような状況にあつて、私たちは何の手立ても講ずることができません。

請願書
陳情書 受付第 1 号
令和2年 2月 18日
加東市議会事務局

また、就学環境が恵まれている公立の看護師養成学校がなくなることになれば、家庭の事情により、夢に描いていた看護師への道が閉ざされる方々が出てくることを心配いたしております。

さらに、播磨看護専門学校があるからこそ、地元就職し、この北播磨の地域医療が支えられているものと自負いたしてもおりますし、地元定住することで地域住民として貢献していると思います。

議員の皆様におかれましては、このような私たちの気持ちを御汲みいただき、存続に向けてお力添えいただきますようお願い申し上げます。

何かと不躰な願いを申し上げましたことをお許してください。

【播磨看護専門学校存続のための主な理由】

- ① 厳しい家庭環境や経済的理由を抱えながら、看護師を目指している生徒の就学機会の確保ができます。
- ② 色々な思いで他の地域・職種からこの地で定住する看護師を目指す人材を受け入れることができます。
- ③ シングルマザーの方が子育てしながら看護師を目指すことができます。
- ④ 地元就業・定住に伴う人口流出対策になります。
(特に若い女性・高い学費＝私立ならば、生徒は4年制大学か都会の専門学校を選び地元に戻ってくる可能性がとて低くなります。)
- ⑤ 今後危惧される在宅医療や訪問看護への従事者の確保・育成につながります。
- ⑥ 播磨看護専門学校が果たしてきた役割は未だ完遂しておらず、今後も需要が増してきます。
- ⑦ 地域に浸透しているこのシステムが一度崩れてしまうと二度と元に戻りません。
- ⑧ 北播磨の公立病院には看護実習を丁寧に受け入れてもらっています。私立専門学校になると他の地域から来て他の地域に就職する人の実習を受け入れることになり地元病院の負担が増え、丁寧な実習ができなくなります。

参考資料

新聞報道 (H31. 4. 26 神戸新聞、R1. 10. 24 読売新聞 等) 資料 2 枚

上記のとおり陳情書を提出します。

令和 2 年 2 月 18 日

加東市議会議長 小 紫 泰 良 様

西脇、加西、加東市と多可町の3市1町でつくる「播磨内陸医療事業組合」が運営する播磨看護専門学校（加東市家原）を巡り、小野市が廃止した上で、市内に誘致を自覚する民間医療系専門学校への教職員移管を提案し、波紋を広げている。同市は運営経費が不要になるなどのメリットを強調するが、3市1町は看護士の確保などに懸念を抱いており、今後、紆余曲折が予想される。

播磨看護専門学校巡り小野市

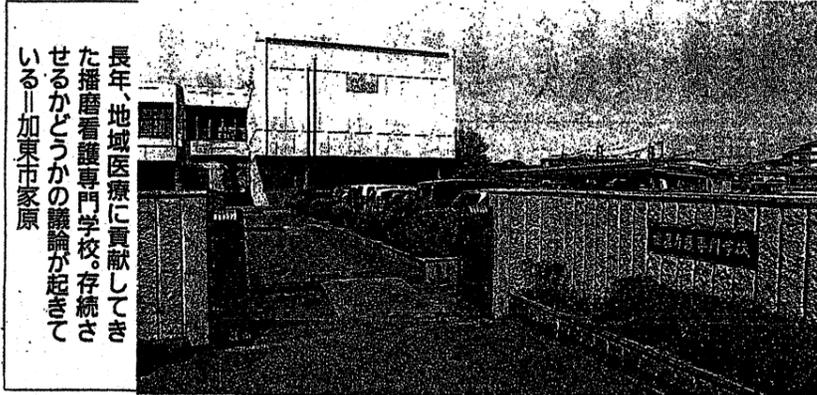
（まとめ・森 信弘）

民間学校への移管提案

小野市に於いて、全国で専門学校などを運営する学校法人が進出を希望。用地は、北播磨総合医療センターなど医療関係機関が集積する固有地で3・5畝を予定する。利点として、築40年を超える播磨看護専門学校建て替えと運営経費が不要▽看護士の定員は同校の35人に対し80人に増え、北播磨への看護師供給体制が充実する一を挙げる。

3年制で定員は1学年200人。看護師のほか全国的に不足する言語聴覚士、理学療法士、精神保健福祉士が各40人で、最短で2023年度の開校を目指す。

建て替え、運営経費不要など利点



長年、地域医療に貢献してきた播磨看護専門学校。存続させるかどうかの議論が起きている。加東市家原

播磨看護専門学校
3市1町でつくる播磨内陸医療事業組合が運営する。入学金は構成市町の出身者が10万円、それ以外は18万円。年間授業料は一律20万円。負担金は均等割と人口割を組み合わせる決まり。

2019年度は、西脇市約2500万円▽加西市約2600万円▽加東市約2400万円▽多可町約1500万円。組合管理費は加東市長で、構成市町の議員による議決も設けている。

三木市も同校を運営する組合に入っていた。関西国際大（三木市）に看護学科ができ、両市は同組合との二重支線を避けるために脱退。だが、看護師不足の解消にはつながっていないという。

小野市の蓬萊市長は「この先増える看護需要や多様化する福祉職員の必要性を考えた時、全て官で賄う時代は終わったのではないかと指摘する。

3市1町の首長は3月末に管理者会を開く。看護師確保の見通しなどを小野市から聞くことを確認したという。5月の連休明けにも、同市側から説明があるという。管理者の安田正義・加東市長は「北播磨の医療圏域で必要な看護師の確保に懸念」

多可町の吉田一四町長は「北播磨での看護師の確保については疑問が残る」との見方を示しながら、「今後、校舎の改築などが必要になれば、確かに負担は大きいと言えらる」と話。

西脇、加西、加東市、多可町 看護師の確保に懸念

資料

- 資料1. 平成31年4月26日 神戸新聞に『播磨看護専門学校が民間学校への移管提案』と記事で掲載
- 資料2. 令和元年10月24日 読売新聞に『看護学校廃止案に懸念』と記事で掲載
- 資料3. 令和元年12月7日 神戸新聞に『播磨看護学校存続の陳情採択』の記事が掲載
- 資料4. 令和元年10月6日 神戸新聞に『有志集い同窓会設立』と掲載
- 資料5. 令和元年11月9日 神戸新聞の【発言】に『公立の看護専門学校存続を』記事が掲載
- 資料6. 令和元年10月12日 神戸新聞の【イミミこちら編集部】に記事が掲載
- 資料7. 令和元年10月24日 神戸新聞の【イミミこちら編集部】『看護専門学校の存続を』と記事が掲載

資料1

播磨看護学校 存続の陳情採択
西脇市会委、全会一致で西脇市会は6日、文教民生常任委員会を開き、播磨内陸医療事業組合立播磨看護専門学校存続に関する陳情書を審査した。「地域医療を支える看護師育成のために必要」との意見が多数を占め、全会一致で採択した。

同校を巡っては、民間専門学校へ移管する案が浮上している。陳情書は播磨看護専門学校出身で、経済的理由で公立でしか学べない人の存在や、今後増加が見込まれる在宅医療、訪問介護従事者の確保などのため、存続の必要性を訴えている。（長瀬麻子）

資料3

看護学校廃止案に懸念

加東など運営4市町 小野市、民間誘致で

資料2

北播磨地域で医療専門学校の誘致、存続を巡って論争が起きている。小野市に民間の医療系専門学校が進出する可能性が高まり、蓬萊市長が、学校を避けるため、既存の播磨看護専門学校（加東市家原）の廃止を提案。これに対し、同校を運営する4市町（加東、加西、西脇市、多可町）が懸念を表明。学校法人に経緯などの説明を聞く予定だが、「小野市長の提案への対応を決めるため、学校進出が前提ではない」としている。（高田寛）

1976年開校の播磨看護専門学校がある。3年制で定員105人。多くの卒業生が地元北播磨地域にある医療機関で働き、地域医療に寄与してきた。

蓬萊市長は5月、同校を廃止して、市が誘致する新たな専門学校に移行するとして、4市町でつくる播磨内陸医療事業組合の管理者会に提案した。運営費や将来の建て替えなどに財政負担が生じることを理由に「民間の活力とノウハウに委ねられるのが、公金によりすべて官が担う時代ではなくなった」と主張している。

これに対し、4市町の首長は、▽これまでと同じように北播磨地域で必要な看護師を確保する必要がある。▽加東市長は、取材に「学校側の話を聞くが、誘致の計画を進めることが前提ではない」と強調。蓬萊市長は「地域医療を守る人材育成の環境整備に向けた議論に踏み込めることは、北播磨地域全体にとって大変有意義だ」との考えを示した。

法人に経緯説明求める

大阪を拠点に全国で職業系専門学校など70以上の教育機関を運営する学校法人が、小野市に進出の意向を表明。これを受け、小野市は今春、北播磨総合医療センター近くの小野長寿の郷構想区域に、3年制で1学

存続問題浮上の播磨看護専門学校

有志集い同窓会設立

署名活動なども検討

播磨看護専門学校(加東市)の同窓会を設立する会合が5日、加東市内のホテルで開かれた。看護師などとして北播磨の医療機関をはじめ各地で活躍する11

け、有志の呼び掛けに応じた人たちが集まった。西脇、加西、加東市と多可町でつくる播磨内陸医療事業組合が運営する同校。かつて小野市と三木市も組合の構成市だった。今年4月、同校を廃止した上で、小野市が誘致を目指し民間医療系専門学校へ移管する提案を受けていることが神戸新聞に掲載されると、卒



先言

公立の看護専門学校存続を

岸本 敦子 58歳 (看護師 西脇市) 公立の看護専門学校は、何といっても学費が安い。地元(看護)の学生が家から通える。だから地元就職し根付いている。私もその一人だ。高齢化社会になって人口が減少する中、地元を根付く若者を一人でも多く育て、支援する必要があるのではないかと思う。

確かに看護師を目指す学生の方々は、大学という選択もある。しかし、さまざまな理由で看護の道を諦めなくてよいように、またこの地域の看護の手を必要とする人々のために、公立の看護専門学校を残してほしい。先日、厚生労働省から、公立・公的病院の再編、統合の病院名が発表され医療従事者は少なからず衝撃を受けたと思う。地域の公立看護専門(校)の廃校発表がないことを切に願う。

資料

業生で情報共有を図る場を設けようと、1期生が発起人となった。

卒業生の多くは地元の公立病院で働く。学校が地域の看護医療を支えてきた自負とともに、現場に身を置く立場として、地域に根付いた人材を育て続ける必要性を感じているという。会合で「母校が危機にひんしている。未来の後輩、地域のために存続を各所に働き掛けたい」などとする同窓会設立宣言が読み上げられると、拍手で承認された。

卒業生や在校生対象のアンケートや署名活動などを検討中。36年間、公立病院で働いてきた設立発起人代表の丸山幸代さん(64)は「加東市は『一地域のために働く医療人を育ててきた学校。未来の人たちのためにも動きたい』と話している。(長嶺麻子)

資料5

資料4

初の看護学校同窓会に

加東市社の看護学校の同窓会が設立されたんです。このたび1期生から38期生まで卒業生約1300人のうち、150人ほどが初めて集合しました。実行委員が頑張つて、それぞれの学年ごとの写真と、その年の出来事をスライドショーにしてくれて。青春を思い出して、1期生からいろいろな話が飛び出し、世代を超えて盛り上がりました。さらに保健師の資格も持ったり、定年前や新人の人もたくさん来てくださり、力強く励まされました。過疎化が進んだけど、この人たちがいたから医療制度がしっかり機能していると思えました。これからもこの看護学校が素晴らしい看護学校を送り出していくようお願いいたします。感動の熱い思いを伝えたくて。(多可、看護師、女、46)

資料6

人も多いんですよ。小野市は専門学校を廃止して市内に民間医療系専門学校を誘致した上で、看護学校を移管したい考えのようです。でも、過疎化が進んでも地元を根付いた看護医療が続いていくよう、看護専門学校を存続させてほしいんです。(加東、主婦、80)

資料7



看護専門学校の存続を
加東市の播磨看護専門学校が廃止される記事が載りました。娘が卒業して看護師として働き、あと2、3年で定年です。頑張つてこられたのは学校のおかげ。近くの病院で頑張っている

